Appendix.

東京2020大会に向けた取り組み
『KEIO 2020 project 2019年度活動報告』

Appendix.

東京2020大会に向けた取り組み

『KEIO 2020 project 2019年度活動報告』

■2019年度の活動の総括

2020年東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプで日吉キャンパスに訪れる英国チームをサポートする学生ボランティア組織として2016年度からスタートさせた本プロジェクトであるが、今年度は翌年に本大会を控え、より具体的な受け入れ準備活動を展開した。各種活動には、未来先導基金、所内研究費および日吉調整予算の採択を受け、学生主体の活動をより幅広く支えることができた。体育研究所では、活動代表者として石手靖君、人文社会領域アンケート担当として村山光義君、地域スポーツ振興教育担当として村松憲君、オリンピズム教育（国内）担当として須田芳正君・坂井利彰君、ボランティア活動教育担当として永田直也君・福士徳文君・東原綾子君、国際交流教育・他教育機関ジョイント担当・プロジェクトコーディネーターとして稲見崇孝君がチームとなって学生の主体的な活動をサポートした。それぞれの助成に対する活動報告は以下を参照されたい。

2018年度と同様に今年度最初の活動として、新入生向けの説明会を行った。2016年の組織発足時には10名足らずであった登録数は、右肩上がりに数を伸ばし、2020年４月末日現在、1098名となっている。組織の効率的な運営にあたり、組織改編を繰り返しながら図１のような体制を確立し、活動を行った。登録した学生の中から、自らがギアになり、KEIO 2020 project が推進する講習会やワークショップの企画・運営に携わることを希望した学生が運営委員に任命され、月に２度開催される運営委員会にて新企画の立案や進行中の企画についての話し合い、情報共有を目的としたミーティングを行った。運営委員となった学生は広報・通訳翻訳・渉外・会計の４部署の中から希望の部署を選択し担当する。広報部であれば、イギリスチームも活用する Facebook や KEIO 2020 project で運用している公式 LINE、Twitter、Instagram など SNS の情報公開を担当する。通訳翻訳部は、SNS で公開する内容やプレゼンテーション資料の英語化を、渉外は KEIO 2020 project に関するプレゼンテーション資料作成や資料素材の管理、塾内外への PR 活動を、会計部は上記資金の運用方法を教員と連携しながら勘案する。運営委員の中の数名はメインメンバーとしてさらに組織を円滑に稼働させる（図１）。

図１．組織体制概略図

メインメンバーは、主にプロジェクト全体の動きを把握し、新しく立案された企画の取りまとめや、教員との連絡・連携を担当した。また、運営委員会が企画したイベント当日には、事前に“運営委員会ではないものの KEIO 2020 project に興味を持っている学生たち”で構成される公式 LINE 登録者に情報を流し、ボランティアとしてイベントに参加してくれる学生を募ることでイベントの運営を行った。これは、昨年度までと同様に、運営委員と“KEIO 2020 project に興味を持ってくれている学生”との間に大きな隔たりを作らず、ボランティアへの参加頻度や貢献度合いに自由度を設けるためである。このよう

な組織体制のもとより多くの企画を実践することができた。具体的には、2020年の事前キャンプと同じ夏季シーズンに来日する競技団体との交流や、塾長室や国際連携推進室、日吉運営サービス、体育会をはじめとした関連部署との塾内連携をより強固にするなど、2020年に向けて活動を展開してきた。活動の詳細は、以下に「活動の足跡」として記載する。

活動のコンセプトはこれまでと同様、2020年に開催されるオリンピック・パラリンピック大会において実際にボランティア活動を行うまでに、経験・実践・準備しておくべき活動・取り組みを学生主体で考え、学び、その過程で培った力をもってBritish Olympic Association（以下、BOA）・British Palalympic Association（以下、BPA）を最大限にサポートすることである。体育研究所としてはKEIO 2020 projectの活動を推進するにあたり、本プロジェクトに関わる学生自らが“知り”、“考え”、“養う”過程で蓄積・形成される【人間の生きる力】を育成するために、学生主体の活動を支えながら成長を促す教育的側面と、本プロジェクトを通して学生がどのように成長・変容したかなどを、各種研究手法を用い分析・検証する研究的側面を合わせ、教育研究機関としての使命を全うしていきたい。

しかしながら、2020年３月、新型コロナウィルス感染症の世界的な感染拡大にともない、オリンピック・パラリンピック史上前例のない大会の「延期」が決定した。同様に、事前キャンプも予定の変更を余儀なくされることになった。KEIO 2020 projectに参画している学生の一人で、現役学生から唯一ランナーとして選出された聖火リレーも中止となるなど、多方面で影響が出ている。さらに、KEIO 2020 projectを入学当初から支え、2020年を４年生として迎えるはずの学生が大会を前に卒業することは残念でならない。それでも、「準備期間が増えたとポジティブに解釈」（稲見崇孝，読売新聞）し、若い世代の豊かな人間の醸成を促す精神的なレガシーをスポーツの側面から確立する【KEIOスポーツレガシー】を共創していきたい。

◆参照

□2019年度未来先導基金：
（http://www.dff.keio.ac.jp/activity/programs/2020/04_detail.html）

□体育研究所所内研究費：p33を参照

□2019年度日吉調整予算：p14を参照

■2019年度 活動の足跡

１．日吉キャンパスバリアフリーマップ製作活動開始（５月７日～）

日吉キャンパスバリアフリーマップ製作活動を開始するにあたり、５月７日に経済学部日吉心理学教室・中野泰志教授とのミーティングを行い、協生環境推進室とのミーティングを行った（５月17日）。「もう一つのオリンピック」と呼ばれるパラリンピックに関わる活動を契機に多様性の尊重と、障がい者を理解する“心のバリアフリー”を塾内外に発信し、浸透させることを狙いとし、当該領域の専門家とともに問題提起・課題解決を目指している。本マップは障がい者など異なる条件を有する方々と共に作り上げることで障がい等に対する理解を深める過程を重要視している。作成にあたり、実際に車いすユーザーの方々と日吉キャンパス内のバリアフリー状況の調査および課題把握のためのワークとミーティングを複数回にわたり実施した【図２】。現在、マップ完成に向け編集作業を継続中である。

２．体育会主務連絡会における発表（５月10日）

2020年度は、BOA・BPAが日吉キャンパスを拠点に活動を開始することから、様々な要請に対応するボランティア活動を展開していくと同時に、事前キャンプを行う各競技団体

に特化したサポートが重要となることから、体育会各部をはじめ塾内のより強い連携をもって活動を展開し、情報を展開・共有することを目的に、英国事前キャンプのサポートについて本プロジェクトの取り組みの発表を行い、今後の意見交換に関する基点を作った。

3．東京観光ガイド2019（6月3日）【図3】

昨年度に引き続き、国際センター主催のKeio summer program に参加した。当該年度は30名近い留学生が参加しており、プログラムの導入として実施された東京観光ガイドをサポートした。当日は、三田キャンパスをバスで出発し、明治神宮や浅草など都内紹介するルートがプログラムされ、図5のように留学生と KEIO 2020 project の学生が複数の班に分かれて行動する中で大小様々な交流を行った。留学生に日本文化を発信するため、主として浅草周辺を入念に下調べした上で当日に臨み、発信する難しさと楽しさを学ぶことができた。

4．2019ふるさと港北ふれあい祭りでの英国事前キャンプ PR ブースの出展（6月1日）【図4】

横浜市ふれあい祭り会場で開催された2019ふるさと港北ふれあい祭りに英国事前キャンプを PR するブースを出展した。事前キャンプを PR するだけでなく、英国について知ってもらうことを目的に、紅茶の試飲やオリンピック表彰台を模したフォトブースの設置、輪投げ体験を実施した。また、英国発祥のスポーツ競技であるクロッケー体験を行った。近隣地域との交流とともに認知度調査も実施できた。

図2

図3

図4

5．日吉英国１年前イベント：協生館ラウンジ装飾（７月１日）【図５】および日吉メディアセンター展示（７月12～31日）【図６】

英国チームの事前キャンプの PR や英国選手を応援し日吉キャンパスを盛り上げることを目的に、協生館ラウンジを装飾した（図５）。また、日吉メディアセンター協力のもと、日吉メディアセンター１階に英国およびオリンピック関連書籍を紹介する展示を行い、その企画と装飾を行った。これらの装飾は、「Home from Home」の概念（“英国”の彩りを基調とする）をテーマとし、学生目線のアイデアを加えながら実施した。

6．読売新聞市民講座「まだ間に合う！ラグビーの楽しみ方」（７月６日）【図７】

日吉キャンパスにて読売新聞と慶應義塾大学主催の市民講座「まだ間に合う！ラグビーの楽しみ方」が開催され、その企画・運営を行った。当日は、午前に体育会蹴球部とともに下田グラウンドにて実技を、午後にトークショーを予定していたが、悪天候により残念ながら午後のトークショーのみ開催した。トークショーでは、2019年ラグビーワールドカップの日本開催に伴い、塾員である廣瀬俊朗氏（元ラグビー日本代表主将）にラグビーにおけるチーム作りや今後のラグビー界の展望について語っていただいた。

図５

図６

図７

7．スポーツユニットの編成・活動開始

現時点で日吉キャンパスにて事前キャンプを行う可能性のある13種目に対応するための「スポーツユニット」を編成し各競技のサポート準備を進めた。スポーツユニットはKEIO 2020 project 内に各競技種目を担当するグループを設置し、各競技のサポートを専門的に行うことを目的としており、勉強会や競技特有のマナー獲得、選手名鑑作成など必要なボランティア像を見出すのみならず、体育会各部や塾長室、英国選手団の窓口となる存在を目指している。BOA 体操チーム（図10）、BOA 水泳チーム（図11）、および BOA・BPA 柔道チーム（図12）の事例を紹介する。選手やスタッフとの交流は、2020年の事前キャンプサポートの意義を考える大変貴重かつ有意義な機会となった。

① BOA 体操チームのサポート（7月8日・9日）【図8】

スポーツユニットとして初めての試みであったため、緊張した中でスタートしたが、友好的な姿勢にも助けられ、自己紹介（図10左上）からはじまり、機器の設置補助（同左下）、スタッフとの交流（同右下）を行うことができた。

図 8

② BOA 水泳チームのサポート（7月8日・9日）【図9】

協生館にてコンディション調整に訪れた水泳チームの練習見学からはじまり、会場の清掃等のサポートを行った。また、体操チーム同様、選手やスタッフ、関係者は大変友好的な姿勢のため良い交流を行うことができた。

図 9

③ BOA・BPA 柔道チームのサポート（7月8日・9日）【図10】

練習前後の清掃や英語案内版の設置など環境整備についても積極的に行った。これまでの体操チームや水泳チームの事例をスポーツユニット間で共有して当日に臨んだ。

総じて、選手やスタッフ、関係者の友好的な姿勢に救われながら実施することができたが、これは同時に、その姿勢に甘えることなく、アスリートファーストの精神や受け入れ側であるマナーを忘れない毅然とした活動が求められることを印象付けることにもなった。

図10

9．日吉商店街・英国大使館盆踊り大会（8月3日）【図11】

英国事前キャンプのPR、地域交流、そして地域と英国をつなげることを目的に、日吉台小学校で行われた地域主催の盆踊り大会に参加した。盆踊り大会の前には、日吉商店街代表者とともに英国大使館を訪問し、大使館員がメンバーである和太鼓集団「どんBri」に盆踊り大会のメインイベント協力を依頼した。当日は、どんBriによる演奏と「東京五輪音頭2020ver」をKEIO 2020 project学生らが雛壇にて踊ったが、事前に地域婦人会のメンバーらと交流しながら練習会を実施した。図13はメインメンバーが事前キャンプをPRしている。

10．広報よこはま港北区版にてコラムの連載開始（2019年8月号より）【図12】

港北区と連携し、広報よこはま港北区版にて「2020年 港北区に英国代表チームがやってくる！」と題した連載がスタートした（図14）。各回担当学生が、区民の方々向けに大会をより身近に楽しめるような内容を学生目線で発信した。掲載されるまでの間には、塾長室・広報室での確認を経て記事を提出するなど、アクセシビリティと掲載されるまでの手続きを学んだ。（参照：横浜市ホームページ，【2019年8，9，10，11，12月号：https://www.city.yokohama.lg.jp/kohoku/kusei/koho/kuban/kohokohoku2019.html】【2020年1，3月号：https://www.city.yokohama.lg.jp/kohoku/kusei/koho/kuban.html】閲覧日：2020年5月7日）

図11

図12

11. KEIO 2020 project Year book（2018）の発行（11月）【図13】

2018年度の活動を Yearbook としてまとめ発行した。デザインから内容の構成まで全て学生のみで完成させたことは、本プロジェクトのコンセプトを体現した成果の一つと言えるだろう。株式会社アド・プリント様には、完成に至るまでにソフトウェアの操作やデータの編集・保存方法等を直接指導いただいた。また、学生のペースで進む複数回の校正作業にも親身に対応・協力いただいた。この場をお借りして御礼申し上げたい。

12. 横浜マラソンボランティア（11月10日）【図14】

実際のメガスポーツボランティアを体験すべく、本年度も横浜マラソンボランティアに参加した。約70名の学生が参加し、事務局スタッフとの連携のもと、手荷物の返却や総合案内を行った。スポーツイベントを支えるボランティアスタッフとして互いに協力し、一人一人が自ら考え自らの責任で行動することの重要性を実感する貴重な機会となった。

図13

図14

13. 英国視察（11月19日～25日）【図15】

昨年度とは大きくメンバーを入れ替え、KEIO 2020 project メンバー 14名と体育研究所の教員 3 名で、英国を視察した。また昨年度と同様、BOA・BPA のスタッフに2012年のロンドン大会のメイン会場であるオリンピックパーク（Queen Elizabeth Park）を案内していただいた。当該年度は、さらに BOA・BPA の新オフィスにお招きいただき、BOA・BPA の考える事前キャンプのコンセプトについてレクチャーを受けた。特に印象に残るのは『Home from Home』というキーワードである。このコンセプトは、まるで英国にいるかのように感じることでリラクセーションを与えようとするものであり、事前キャンプ受け入れのサポートする組織として重要な鍵となる。また、KEIO 2020 project の活動に関するプレゼンテーションと活動報告、チャレンジしている取り組みについて述べ、昨年以上に具体的な意見交換を行えたことにより今後の更なる連携に期待が高まる機会となった。また別日には、2012年のロンドン大会にて英国チームと日本チームの事前キャンプ地となったラフバラ大学の視察を行った。各種スポーツ施設や設備の充実さに驚きを隠せない学生も多く、また全室バリアフリーとなっている宿泊施設見学では細部に渡る配慮、気遣いを肌で感じることができ、バリアフリー環境に対する理解を深めることができた。さらに、約200名が集まった英国三田会総会にも出席する機会をいただき、塾員の方々と交流を深められたことは参加した教員、学生ともに貴重な経験となった。帰国後には、視察メンバーによる情報共有として、報告会も行われた。未来先導基金から費用を支出している。

図15

14. ひよしマップの完成・配布開始（１月）【図16】

昨年12月、日吉商店街の方々を体育研究所にお招きして開催した“ひよしマップ”の説明会から約１年を経て、ついにマップが完成した。日本語版は商店街での配布を開始しており、英語版は来たる英国選手団へ配布予定である。学生たちは完成するまでの間に、掲載の可否やデザインの確認など、各店舗との複数回に及ぶやり取りの中で各種ノウハウを学ぶことができた。ご協力いただいた商店街の方々にこの場をお借りして御礼申し上げたい。

図16

15. 日吉 British Week 開催準備（１月14日～）

KEIO 2020 project の活動も大詰めを迎え、これまで取り組みを共にしてきた地域、企業、行政らとともに、チーム一丸となったイベント「日吉 British Week」の開催を決定した。１週間程度港北区で開催されるオープンガーデンという英国発祥のイベントのコアイベント日を設定し（５月10日）、日吉商店街・港北区・慶應義塾大学の三者が主催となって英国事前キャンプ直前に行う最後の大型イベントである。KEIO 2020 project としては、大会開催を前に学生らが自ら企画運営可能な最後のイベントとなるため、集大成として位置付けを持つ。初回のミーティングはこの三者の関係者のみで開催されたが【図17】、第２回会議ではイベントに協賛いただく企業と学生を含めた70名ほどのメンバーが英国事前キャンプを成功させようと集まった。大小規模は様々ながらも数十回にわたる会議を経て、図18のフライヤーが完成となったが、残念ながら、新型コロナウィルス感染症の拡大に配慮するため３月27日に中止が決定された。

図17

図18

16. 東京2020オリンピックの神奈川県内聖火ランナー選抜（経済学部３年大類なをみ君）（12月17日）【図19】

本プロジェクトに参画している経済学部３年の大類なをみ君が、東京2020オリンピックの神奈川県内聖火ランナーに選ばれた。大類君は、「聖火ランナーとして東京大会を盛り上げる役目を担えることをとても嬉しく思います。大学では KEIO 2020 project の一員として英国オリンピック・パラリンピック代表チームの事前キャンプ受け入れに向けて活動しており、現在日吉キャンパス構内のバリアフリーマップ作成に取り組んでいます。胸を張って走れるよう、精一杯力を尽くします」と意気込みを語った。

記事１：https://www.keio.ac.jp/ja/news/2020/1/8/27-66826/

記事２：https://www.pref.kanagawa.jp/docs/x3t/prs/r5874648.html

17. BOA・BPA ボランティアトレーニングセッション（２月20日）

事前キャンプボランティアの募集が開始された。BOA・BPA から事前に示されたボランティア参加の条件に合致した学生が応募できる。KEIO 2020 project 以外の学生にも広く募集が行われ、スクリーニングが行われたのち、３月18日・19日には BOA・BPA によるボランティアトレーニングセッションが計画されていた。体育研究所の教員数名もスクリーンングに参加し、厳正な基準のもと、審査が行われたが、このトレーニングセッションも残念ながら新型コロナウィルス感染症の影響で延期となった。しかしながら、ボランティア参加を希望した人数の半数以上を KEIO 2020 project から排出できたことは評価できる。大会延期に伴う日程の変更によって、参加希望者の変動があり得るが、引き続き高いモチベーションで取り組めるかどうかも重要な視点となる。

図19

18. 慶應スポーツ SDGs シンポジウム2020におけるレガシーパネル展示（２月29日）【図20】

東京2020イヤーに考える“持続可能なスポーツ・身体活動について行うべきこと”を発信するため、慶應義塾大学スポーツ医学研究センターおよび大学院健康マネジメント研究科によって共同開催された「慶應スポーツ SDGs シンポジウム2020」にパネル展示として参画した。KEIO 2020 project のこれまでの活動の軌跡はもちろんのこと、特に今後の展望をまとめたレガシーパネルに力を入れた。

尚、本シンポジウムは、新型コロナウイルス感染拡大の状況等を踏まえ、開催が延期されている（開催時期未定）。

図20

19. KEIO 2020 project ホームページ開設（3月4日）

2019年度教育・研究調整予算（日吉）の助成を受け、学生が主体的に運用可能な KEIO 2020 project ホームページを開設した。これまでのホームページは、体育研究所内に格納されていたため、学生の運用は教員に依頼する形であったが、学生主体に更新できるようフレームワークを整えた。プロジェクト内の日々の活動をはじめ、英国選手団に関する情報およびプロジェクトの活動を通じて作成した資料の公開など、活動の軌跡を広く発信する内容となっている。今後内容の充実を図っていく。

20. ワークショップの開催について（3月）

未来先導基金の助成を受け、車椅子ワーク【図21】をおよびサッカーアスリートによるワークショップ【図22】の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を考慮し、残念ながら開催中止が決定された。今後の活動の糧となる有意義な企画となることが期待され、また、講師の方々には開催に向けて準備を進めていただいていた中での中止決定であった。今後また、開催の機会が得られることを切に願う。

図21

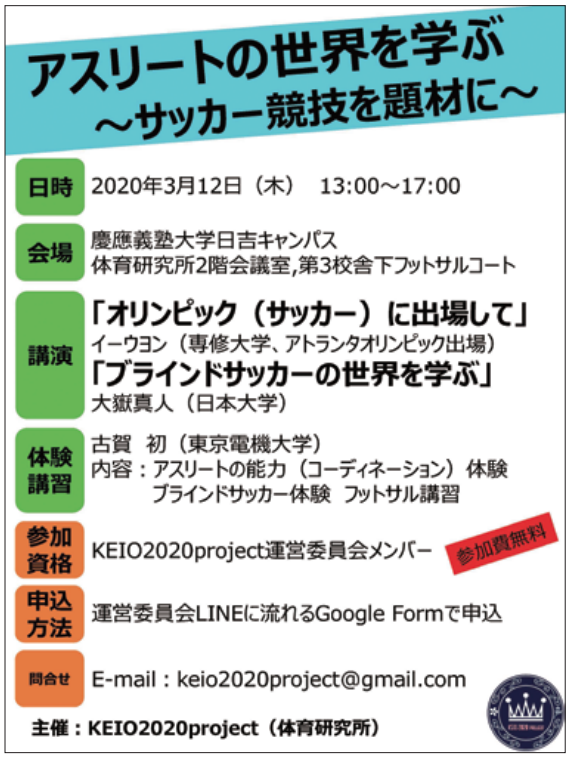

図22

■課題と展望

2020年度の活動は、未来先導基金から３年計画の３年目にあたるプログラムの採択通知を受けており（採択名：KEIO スポーツレガシー ―東京2020オリンピック・パラリンピック英国サポートを通じた“生きる力”を備えた人間育成プロジェクト【KEIO 2020 project】―，代表：石手靖君）、これを基にボランティアサポート本番の活動と、事前キャンプ終了後のレガシー獲得のための活動を幅広くサポートしていく予定であった。活動のコンセプトは今年度までと同様、「2020年に実際にボランティアを行うまでに、経験・実践・準備しておくべき活動・取り組みを学生主体で考え、学び、その過程で培った力をもって BOA・BPA を最大限にサポートすること」にある。

この揺るぎないコンセプトのもと、本プロジェクトの活動は2020年度に集大成を迎える予定であったが、2020年３月、新型コロナウィルス感染症の世界的な感染拡大にともない、オリンピック・パラリンピック史上前例のない大会の「延期」が決定した。同様に、事前キャンプも計画の変更を余儀なくされる。本稿を執筆する2020年５月初旬時点、依然として新型コロナウイルス感染症の収束に向けた見通しは不透明であるが、事態を前向きに捉え、今こそ結束を強め、未曽有の事態を乗り越える“生きる力”を発揮すべき時である。

引き続き、日吉キャンパスが受け入れる競技種目に関わるボランティア活動を加速させるとともに、これまで掲げてきた３つの活動コンセプト：①選手をベストコンディションで選手村へ送り出す、②横浜市、川崎市とともに地域を盛り上げる、③英国文化を受け入れ、日本（文化）の魅力を伝える、に加えて、④**これまでの活動を通じて構築した KEIO スポーツレガシーの発信・共有**するべく活動を推進していく。そのために体育研究所では、2021年に延期となった東京2020大会終了後も見据えた長期的な価値を創造することを目的とし、塾長室や日吉運営サービス、学生部、国際連携推進室、体育会など、一貫教育校をはじめとした関連部署との塾内連携をより強固にし、“ALL 慶應”体制で【KEIO スポーツレガシー】を共創していく。

最後に、今年度の活動も多くの慶應義塾の教職員と関係企業、地方自治体、団体の方々に多大なるご尽力をいただいた。この場を借りて、御礼申し上げるとともに、今後の活動にも引き続き、ご理解ご協力いただければ幸いである。

【文責：東原綾子】